

日本でのハラールの状況

ムハマド・ズベル

(フォトビデオジャーナリスト)

海外からの観光客が増加する中、日本でも「ハラール」食に対する関心が高まっています。ハラールはアラビア語で「許されている」という意味があり、食べ物の場合、イスラムの教えや法の中で口にすることを許されているものという意味があります。イスラムの聖典であるクルアーンやハディースでは、豚やアルコールを禁止しています。

ピュー研究所の2010年の研究によるとイスラム教を信仰する人々の数は約16億人にのぼり、キリスト教に次ぐ世界第2位の信仰者がいる宗教です。ムスリムは世界の49カ国で人口の大多数を占めています。その中でも最もムスリムの多い国がインドネシアで、パキスタンがそれに続きます。

日本にはムスリムの人口が少なく、25万人から30万人の間だと言われていますが、増加傾向にあります。1988年、私が来日した頃日本には2つのモスクしかありませんでしたが、現在の日本には80以上のモスクと仮設モスクがあります。

同じように1988年、日本にハラールフードショップは一軒ありませんでしたが現在は全国にハラールフードショップがあります。これによりムスリムの人々がハラールの肉製品や他のハラール食材を入手するのは簡単になりましたが、ハラール認証を受けている飲食店を探すことは難しいままです。

日本では外国人観光客が増えており、政府は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には4千万人もの観光客を見込んでいます。そんな中、イスラム国家からのムスリム観光客の数も徐々に増え続けています。今後、ハラールの食事の需要が大幅に増加することが予想されます。

東京都内でハラールの食事を提供している店の数は増加していると言われていますが、その速度はとても遅いです。ハラールの飲食店の数を増やすことは日本をムスリムに優しい国にするための重要な一歩となります。日本の観光業界はハラールレストランを増やため、より多くの努力をするべきでしょう。